

**第7回エコエリアやまがた推進コンクール
優秀賞（山形県農業協同組合中央会長賞）**
※掲載している情報は平成24年度時点のものです。

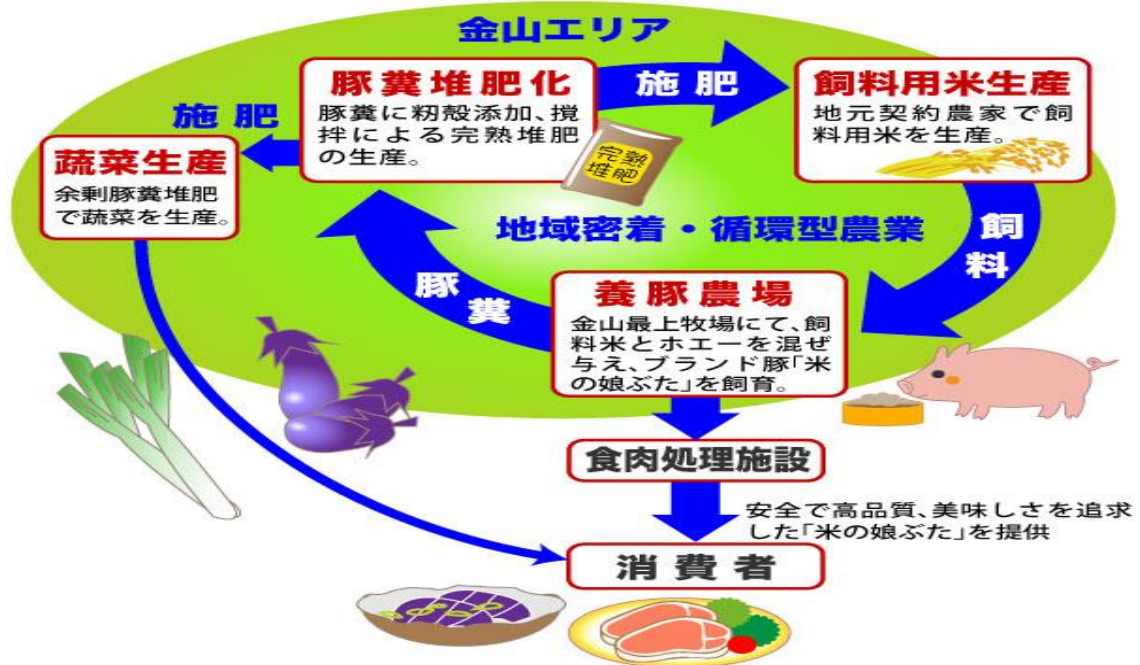
名 称	農事組合法人 いずえむ
所在地	金山町
<p>1. 取組の背景・経過等</p> <p>平成21年12月、3名の構成員から成る「農事組合法人 いずえむ」を設立。地域の雇用拡大（現在も林業に携わっていただいている方々も含めると10数名を日給またはパートで雇用）などにも取り組んでいる。</p> <p>主な経営内容は、水稻21ha、ねぎ2.5ha、水稻作業受託10ha。稲作分野においては、直販にも取り組んでおり、首都圏でゆうパック商品として採用されている。また、園芸分野では、県内の産直店、生活協同組合、さらには首都圏百貨店での催事利用など多岐にわたる。また、ねぎの規格外となったものについて、埼玉県の加工場や製麺会社などに提供し、新たな加工品として市場に流通させるなど、生産品に無駄が生じないように経営展開をすすめている。</p> <p>法人として、役割分担を明確にし、商品開発など、それぞれの業務に主体的に携わることで活気が生まれ、経営に好影響を与えている。加工品については、主たる生産物であるネギを使った加工品開発をすすめ、加工用野菜として他の野菜の生産も予定している。</p> <p>●沿革</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年04月 県「新農業やまがた創造プロジェクト事業（平成20.21.22年度）」決定（法人化後も引き続きプロジェクトに参画） 金山活粋野菜倶楽部ねぎ部会がもがみねぎを初出荷する ・平成21年12月 農事組合法人いずえむを設立 ・平成22年04月 G A P 認証のもと、酒米の契約栽培を行う ・平成22年06月 もがみねぎで全国チェーンのラーメン店と取引開始 葉ねぎで全国チェーンのうどん店と取引開始 ・平成22年11月 県「農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業」決定 農産加工場を新設する <p>●売上高</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成22年度23,054千円 ・平成23年度：42,243千円 <p>2. 農業経営・技術と取組姿勢</p> <p>(1)環境に配慮した農業技術の実践と工夫</p> <p>●契約栽培米（J A金山稲作推進協議会）</p> <p>①販売優先での売れる米づくり 販売あつての米づくりとして、販売先との契約による信頼される産地づくりを進めている。 ミニストップ米（はえぬき・あきたこまち）、酒米（出羽燦々・美山錦）、もち米（ヒメノモチ）を中心とした契約栽培体制として、契約先の要望に応えるべく、生産販売に努めている。</p> <p>②環境保全型稲作の拡大と進め方 時代が求める新たな米づくりの一環として、今後も立地条件を生かし、自然環境にやさしい、配慮した米づくりを目指している。 なお、今年より省（減）農薬米並びにエコ栽培米は、マイルド栽培米の一本化として進める。 ア. 特別栽培米基準（ヒメノモチ・出羽燦々）：減農薬50%＋減化学肥料50% イ. リサイクルループ米基準（はえぬき）：減農薬50%＋減化学肥料15% ウ. マイルド栽培米基準（はえぬき・あきたこまち）減農薬50% エ. ブランド栽培米基準（出羽燦々）「シリカタント＋J G A P 認証」</p> <p>③生産履歴（トレーサビリティ）記帳運動による米づくり 食品の安全性と農産物の安全・安心を保證するものとして、全品種・全水田・全員を対象とした取組みとして「栽培管理記録表」（年特申込書に添付）の記帳作成運動を進めている。</p>	

(2) 家畜排せつ物、稲わら、食品残さ、農業用使用済プラスチック等のリサイクル利用の実践と工夫

●新農業やまがた創造プロジェクト事業

(背景と目的)

平成 20 年度の秋に下野明地区に大規模養豚施設・(有)金山最上牧場が稼動するにあたり、そこから供給される堆肥の有効活用による地域循環型農業の展開を図るために、転作田を活用し、養豚施設の豚の飼料に配合する飼料用米の生産や、ねぎ等の新たな園芸品目振興を進め生産額 1 億円の産地化を目指している。



(期待される成果)

- ・環境保全と耕蓄連携による地域循環型農業生産活動の展開
- ・耕作放棄地の解消と転作条件不利地における飼料用米の生産確立
- ・新規園芸作物（ねぎ）の導入と産地化
- ・安全・安心な飼料づくりと飼料自給率の向上
- ・担い手の育成

3. 周辺等への影響力・普及力

●農林水産業創意工夫プロジェクト支援事業

(プロジェクト名)

農産物加工及び周年農業への挑戦

(実施方針)

転作田を活用した園芸作物の栽培を行ない、加工品生産まで行う創意工夫したプロジェクトを実施することで、農業産出額の増大を図る。また、周年農業に取り組むことで雇用の創出を図る。

(プロジェクト概要)

- ・創意工夫
ねぎ栽培における低価格品（規格外等）を活用した加工生産販売。

(期待する効果)

新規就農者の栽培管理による雇用(60人)の確保・後継者対策、農産物加工による冬期間の地域内雇用(90人)など地域への波及効果が大きい。また、地域内の生産調整の円滑な推進・耕作放棄地の減少に期待できる。

(地産地消)

- ・かねやま旬菜倶楽部
- ・米粉めん（米の消費拡大）
- ・米粉たこやき（米、ねぎの消費拡大）

●資格等の取得

- ・平成 23 年 4 月 1 日、代表理事の青柳氏が山形県指導農業士に認定された。

(1)創造性・地域的な影響力

林業として、山の下刈り・除間伐・植林などの作業請負を行うことで、農業には欠かせない水源を守り、大雨による災害を未然に防ぐなど、アグリフォレストリー（混農林業）を実践・継続している。

(2)消費者等との交流、食農教育・環境教育への参画等を通じて消費者等の環境保全型農業に対する理解と関心の増進に貢献

①インターンシップの受入れ

毎年、インターンシップ（金山町、県立神室産業高校等）を受入れ、実践を通しながら環境保全型農業に対する理解と関心の増進を図っている。

②農村青少年への指導の実績

定着支援アドバイザー（新規就農定着サポート事業）として、実践を通しながら環境保全型農業に対する理解と関心の増進を図っている。

(3)地域の農業資源の保全と活性化

①調整水田や自己保全飼料用米の生産

耕作放棄地の解消と転作条件不利地における飼料用米（72.46ha）の生産確立において、中心的な活動をしている。

②農地・水・保全管理

明安地域保全会（受益面積 198.82ha）では、代表理事の青柳氏が事務局長として中心的な活動をしている。

(4)地場農産物の利用拡大、安全・安心への取組の実践

①産直販売による地場農産物の利用拡大

かねやま旬菜倶楽部に加入することにより、山形市4店舗（生協）でのインショップ型産直に出店し、県内農産物の利用拡大を図っている。

②JGAP団体認証（平成22年4月）による酒米の契約栽培（6ha）。

GAP手法の導入および、土壌改良など新たな栽培方法により、トレーサビリティを確立した品質の高い酒造好適米を生産している。

4. その他特記事項

●東日本大震災における活動

- ・平成23年産米の生産数量目標の県間調整による金山町の引受数量110tを49名の農家が参加し、主体的に実施している。
- ・青柳氏は福島県相馬市（金山町に避難）において、ご飯の炊き出し・米供給などの活動を行っている。

5. 取組の成果と展望

農事組合法人いずえむとしては、地域密着・循環型農業をシステム化し、堆肥散布の受託（主に園芸作物）を行ない、これらの取り組みをウェブサイトで紹介し、ネット販売も増加している。今後は、6次産業化（米粉めん、米粉たこやき）への挑戦、周年農業の確立に向けて取り組みを強化していく。

環境に配慮した取り組みとしては、作付面積が増加しつつあるねぎの残渣施用による水稻の実証圃の設置・実用化へ向けての模索と行っている。

また、経営体としての将来性を考慮し、来年度以降、エコファーマーの申請を予定している。

町全体としての成果は、県プロジェクト「耕蓄連携による地域循環型農業の推進」（平成20～22年度）による実証圃の結果をもとに、大規模養豚施設・（有）金山最上牧場から供給される堆肥（600t/年間）の有効活用による地域循環型農業の展開を図るために、転作田を活用した養豚施設の豚の飼料に配合する飼料用米の生産面積が72.46haに拡大した。また、新たな園芸振興品目「ねぎ」についても生産額が年々増加しており（H23生産額27,015千円）、最上地域におけるねぎの産地化に寄与している。

(資料) ※金山町全体の状況

●飼料用米の年度別作付面積

年 度	H20	H21	H22	H23
作付面積 (ha)	2.51	26.88	44.84	72.46

●ねぎの生産販売状況

年 度	作付面積 (ha)	栽培者数 (人)	生産量 (t)	産出額 (千円)	単価 (円)
H20	1.5	4	47.2	8,781	186
H21	4.2	6	103	21,217	208
H22	4.9	5	116	34,989	300
H23	4.1	4	117	27,015	231

●堆肥の作目別施用量 (堆肥の生産量 600 t / 年 : 全量を施用する)

作 目	ねぎ	にら	飼料用米	計
施肥量 (t)	75	150	375	600
施肥面積 (ha)	5	15	75	95

